

お祖師さまを巡る人々

第9回



高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

【南部実長】さんは、鎌倉幕府の御家人（将軍に直接仕えた武士）なんだよ。お祖師さま（高祖日蓮大士）が、ご晩年（年老いてからの時期）の八年四カ月を過ごされた「身延山」（山梨県）は、「南部実長」さんの領地（自分の土地）なんだけど、これをお祖師さまにご有志（金品や物を進んで差し出すこと）され、お給仕につとめられたお方なんだ。今回は「南部実長」さんのお話をするね。

南部実長

【南部実長】さんの正式な名前は「南部六郎実長」というんだよ。甲斐国（山梨県）の波木井（南巨摩群身延町）という所に住んでいたの、「波木井実長」さんとも呼ばれていたんだ。お祖師さまも御書（お手紙）の中で「波木井」さんと呼ばれているよ。

文永六年（一二六九）ごろ、鎌倉で辻説法（道や通りを行ったり来たりする人に仏様の教えを説き聞かせること）をされていたお祖師さまに、「実長」さんはとても感動され御題目のご信者となったんだ。

文永十一年（一二七四）五月、お祖師さまは「佐渡島（新潟県）の流罪（罪人を都から遠く離れた所や島に送る刑）」から赦免（罪や過ちが許されること）され、鎌倉にもどられたんだね。

その時、「実長」さんは、お祖師さまを自分の領地の波木井に招待されたんだよ。（平成三十年六月号の佛立新聞『お祖師さまをお訪ねする物語』も読んで見てね）

そして、領内（自分の土地の中）の身延山を中心に十三里四方（一辺が約七キロの



常陸の湯に向うお祖師さまに、実長は息子の実継や数名の家来を警護にあたらせ、栗鹿毛の駿馬を差し上げ、別れを惜しまれた

正方形の土地をご有志して、お住まいを建て、お祖師さまにお給仕されたんだよ。数年後、このお住まいが、お弟子たちが増えたりいろんな所が傷んできたんだね。そこで、弘安四年（一二八二）、【実長】さんは、十間四面（一辺がおよそ十八メートルの正方形）の新しいお堂を建てられたんだ。

お祖師さまは、このお堂をととても喜ばれて「身延山妙法華院久遠寺」と名付けられたんだ。これが久遠寺（日蓮宗総本山）のはじまりなんだね。

弘安五年（一二八二）の秋、お祖師さまは健康状態が悪くなられたんだ。そこで、八年四カ月を過ごされた身延山を離れ、常陸（茨城県）の湯へ養生（病気の回復につとめること）に向かわれることになったん

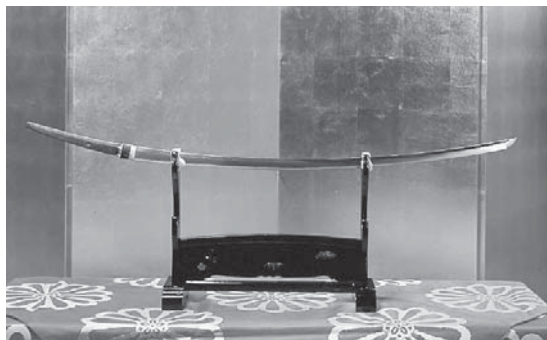
だよ。

【実長】さんは、お祖師さまが身延山を出発される時、お身体が疲れないようにと一頭の馬を差し上げられたんだ。そして、息子の実継と数名の家来たちに、お祖師さまの護衛（つきそって守ること）を言いつけ（命令する）たんだよ。お祖師さまのことをとても心配されたんだね。

お祖師さまは、武蔵国（東京都）のご信者の池上宗仲さんの邸（家）に着くと、【実長】さんに手紙を送られ、十月十三日に池上さんの邸で亡くなられたんだ。だから、この手紙はお祖師さまが、ご信者に出された最後の手紙となったんだね。

この手紙の内容は、「お墓を身延に建ててください」という内容だったんだ。その言葉の通り、お祖師さまのお墓は身延に建てられたんだね。そして、このお墓を【実長】さんと六老僧（お祖師さまが亡くなる時に指名された六人のお弟子）たちがお守りすることになったんだ。

【実長】さんは、永仁五年（一二九七）九月二十五日に七十六歳で亡くなられたんだ。お祖師さまの身延山での生活を本当によく支えられた方だったんだね。



数珠丸（尼崎・本興寺蔵）
数珠丸は南部実長からお祖師さまに護身用として贈られた刀といわれている。名前の由来はお祖師さまが刀の鏢に数珠をかけられていたためこの名前がついたという。天下五剣のひとつに数えられ昭和25年（1950）には重要文化財にも指定された



南部六郎実長像
身延山久遠寺境内にある開基堂の中に安置されている像。
身延町指定文化財



南部実長の墓
身延山の御廟所（お祖師さまのお墓）の横に南部実長の墓（白丸で囲っている所）がある。他にも波木井山円実寺、梅平長円寺（鏡円坊と合併）に分骨されている